



# 「第2回 福岡城天守の復元的整備を 考える懇談会」開催報告

4月26日に、国史跡・福岡城跡の天守復元について検討する「福岡城天守の復元的整備を考える懇談会」（事務局＝当所）第2回が開催されました。4月号に引き続き、第2回の議論内容をご紹介します。

## 第1回の議論内容の振り返り

第1回懇談会では、丸山雍成氏（九州大学名誉教授）が文献資料に基づき福岡城天守を巡る研究と現状を説明。学会では、天守はあったということが定説になっていると強調しています。

しかし、福岡城跡は国史跡であり、現状を変更したり、天守のような建造物を作ったりするには、文化庁長官の許可が必要となります。加えて、城の設計図や写真などの資料不足、石垣の保存等の課題があることから、復元は困難とされています。

天守の存在は、市民の心の拠り所となるランドマーク的な役割を果たし、郷土愛の醸成や福岡の魅力向上にも必要不可欠です。山中座長は、どうすればこれらの課題を克服できるかについて、「次回は建築学の観点から専門家の意見を尋ねたい」と締められました。

## 第2回の議論内容

前回の議論を踏まえ、第2回懇談会では、天守が存在したことを前提に、その構造について、建築史を専門としている佐藤正彦氏（九州産業大学名誉教授）が自ら作成した設計図に基づき説明。

佐藤氏は、「福岡城の天守は、普請帳や建築設計図などの建築資料が確認されていないが、現存する石垣と地下の礎石、『九州諸城図』で描かれた各お城の階層から、『五重六階、地下一階造りではないか』と述べました。また、復元的整備にあたっての建築方法について、石垣の保護とバリアフリーの両立の観点から、地中梁を入れ人工地盤を作ることなどを提案しました。

意見交換では、千相哲氏（九州産業大学副学長）は、都市文化や観光の活性化の観点から、「天守の復元を含む福岡城跡の活用は、地域アイデンティティを象徴し、地域の歴史文化を物語る重要な役割を果たす。それによって福岡の魅力が地域以外の方にも伝わり、地域のさらなる発展・繁栄につながるだろう」と述べました。また、石井幸孝氏（NPO法人福岡城・鴻臚館市民の会理事長）は「当時の姿のまま復元するかどうかもある必要がある」と指摘しました。

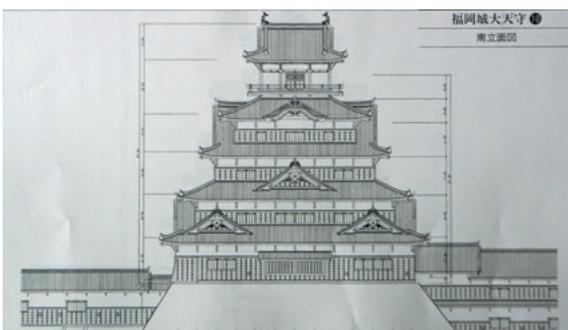
最後に、山中座長は「専門家の方々の知見だけでなく、今後はアンケート等で市民の意見も伺っていきたい」と締め括りました。



▲記者の質問に回答する懇談会メンバー



▲天守の構造について説明する佐藤氏



▲福岡城天守閣設計図（佐藤 正彦氏が作成）



▲創建当時の福岡城CG（監修：佐藤 正彦氏）

お問い合わせ／総務・人事グループ TEL：092-441-1110